

簿記・会計

(全問必答)

第1問 次の問い(A・B)に答えよ。〔解答記号 ～ 〕(配点 40)

A 取引および記帳に関する16ページから19ページの問い(問1～3)に答えよ。
ただし、金額の単位はすべて千円である。なお、()は各自で考えること。

問1 次の文章の空欄 ～ にあてはまるものを、下の解答群のうちから一つずつ選べ。

企業の簿記では、基本的に、主要簿として二つの帳簿が使用される。一つは、取引を発生順に記入する という帳簿であり、もう一つは、すべての勘定口座が設けられ、勘定口座ごとに増減が記入される である。取引は、まず に記入され、それにもとづいて に される。

また、 が正しければ、すべての勘定の借方合計金額と貸方合計金額は、つねに等しくなる。これを という。

～ の解答群

- | | | |
|-----------|-----------|----------|
| ① 起 票 | ④ 転 記 | ⑦ 仕 訳 |
| ② 振 替 | ⑤ 仕 訳 帳 | ⑧ 商品有高帳 |
| ③ 残高試算表 | ⑥ 総勘定元帳 | ⑨ 単一性の原則 |
| ④ 貸借平均の原理 | ⑦ 貸借対照表等式 | |

問 2 次のA～Hのうち、簿記上の取引ではないものが二つある。その組合せとして正しいものを、下の解答群のうちから一つ選べ。 オ

- A 商品¥40 が盗難にあった。
- B 家賃を月額¥5 値上げするむねの通知を受けた。
- C 銀行から現金¥800 を借り入れた。
- D 火災により建物(帳簿価額¥2,000)が焼失した。
- E 現金¥1,000 を元入れして営業を開始した。
- F 給料の所得税預り金¥30 を税務署に現金で納付した。
- G 受取手形¥20 が不渡りとなり、償還請求を行った。
- H 備品¥300 の購入契約を結んだ。

オ の解答群

- | | | |
|-------|-------|-------|
| ① A—D | ② A—E | ③ B—E |
| ④ B—H | ⑤ C—H | ⑥ F—G |

簿記・会計

問3 **資料** は、個人企業である福岡商店(決算は年1回、決算日は12月31日)の平成×5年12月中の取引の一部である。下の(1)・(2)に答えよ。なお、商品売買取引は3分法により記帳している。

資料 平成×5年12月中の取引の一部

- 1日：長崎商店が倒産し、同店に対する売掛金¥300が回収不能となった。なお、この売掛金に対して貸倒引当金は設定されていない。
- 9日：熊本商店に商品を¥20で売り渡し、代金は以前に当店が発行した商品券で受け取った。
- 13日：店主が、店の現金¥50を私用のために引き出した。
- 17日：新潟商店に対する売掛金¥200を同店振り出しの小切手で回収した。
- 26日：従業員の出張にさいし、旅費の概算額として¥60を現金で渡した。
- 31日：決算にあたり、消耗品の在庫を調べた結果、未消費分が¥30あったので、次期に繰り延べた。

(1) 次の①～③のそれぞれは、**資料** に示されている取引の取引要素の結合関係を示したものである。空欄 **力** ～ **サ** にあてはまるものを、下の解答群のうちから一つずつ選べ。なお、同じものを何度選んでもよい。

	(借方要素)	—	(貸方要素)
① 1日：	力	—	キ
② 9日：	ク	—	ケ
③ 13日：	コ	—	サ

力 ～ サ の解答群							
① 資産の増加	② 資産の減少	③ 負債の増加	④ 負債の減少	⑤ 資本の増加	⑥ 資本の減少	⑦ 収益の発生	⑧ 費用の発生

- (2) 次の①～③のそれぞれは、資料に示されている取引の仕訳である。
空欄シ～セにあてはまる勘定科目を、下の解答群のうちから一つずつ選べ。

①	17日：(借)	シ	200	(貸)	()	200
②	26日：(借)	ス	60	(貸)	()	60
③	31日：(借)	()	30	(貸)	セ	30

シ～セの解答群

- | | | | |
|--------|--------|--------|--------|
| ④ 現金 | ① 当座預金 | ② 受取手形 | ③ 有価証券 |
| ⑤ 繰越商品 | ⑥ 消耗品 | ⑦ 仮払金 | ⑧ 前払金 |
| ⑨ 立替金 | ⑩ 旅費 | ㊱ 消耗品費 | ㊲ 雑費 |

簿記・会計

B 個人企業である金沢商店(決算は年1回、決算日は12月31日)に関する20ページから22ページの問い(問1・問2)に答えよ。ただし、金額の単位はすべて千円である。なお、()は各自で考えること。

問1 金沢商店は、本店のほかに支店を設けており、支店の会計は本店の会計から独立している。ただし、商品売買取引の記帳にあたり、本店は3分法を採用し、支店は分記法を採用している。なお、当期首および1月末において未達事項はない。

次の 資料1 ・ 資料2 にもとづいて、下の(1)・(2)に答えよ。

資料1 1月28日における本店および支店の総勘定元帳の一部

1月28日までに、本店および支店において、仕入戻し、仕入値引、売上戻り、売上値引は生じていない。

[本店の支店勘定]

支	店
85	15

[支店の本店勘定、商品勘定および商品売買益勘定]

本	店
15	80

商	品	商品売買益
95	1/4 売掛金 15 11 諸 口 36	1/4 売掛金 3 11 諸 口 7

(注) 日付、摘要欄の記入のない金額は、期首から1月28日までの合計額を表している。

資料2 1月29日から1月31日までの本支店間のすべての取引

29日：支店は、有価証券の代金未払額¥5について、28日に本店が現金で立替払いしたむねの通知を受けた。

[支店] (借) 5 (貸) () 5

30日：本店は、支店に商品¥30(原価)を発送し、支店は同日、受け取った。

[本店] (借) () 30 (貸) 30

[支店] (借) () 30 (貸) () 30

31日：本店は、支店受取分の利息¥10を現金で受け取り、支店はその通知を受けた。

[本店] (借) 現金 10 (貸) 10

[支店] (借) () 10 (貸) () 10

- (1) 資料2の空欄 ~ にあてはまる勘定科目を、次の解答群のうちから一つずつ選べ。

<input type="text" value="ソ"/> ~ <input type="text" value="チ"/> の解答群			
① 本店	④ 未払金	⑦ 仕入	
② 未収金	⑤ 前受金	⑧ 売上	
③ 立替金	⑥ 商品	⑨ 受取利息	
① 支店			

- (2) 資料1・資料2にもとづいて、次の記述(a)・(b)の空欄 ~ にあてはまる数字を、解答用紙の解答欄にマークせよ。

(a) 支店の当月の売上高は、¥ である。

(b) 本店の支店勘定と、支店の本店勘定の1月末における残高は、¥ で一致する。

簿記・会計

問2 金沢商店の本店は、委託販売および試用販売を行っている。次の

資料3 にもとづいて、下の(1)・(2)に答えよ。

資料3 本店の委託販売および試用販売に関する1月中のすべての取引

10日：富山商店に販売を委託し、仕入原価¥50の商品を積送した。なお、積送のための運賃¥3は現金で支払った。

(借) () (貸) () ()
現金 ()

15日：富山商店から、10日の委託商品すべてについて、売上計算書(売上高¥75、諸掛¥13)とともに、手取金¥62を現金で受け取った。

(借) 現金 (貸) 売上
(借) () (貸) () ()

20日：かねて横浜商店に試用販売のために送付していた商品8個(原価@¥5、売価@¥7)のうち、5個を買い取るむねの通知を横浜商店から受け、代金は掛けとし、残りは返品された。

(借) () 35 (貸) 35
(借) 試用仮売上 (貸) ()

(1) 資料3 の空欄 ・ にあてはまる勘定科目を、次の解答群のうちから一つずつ選べ。

・ の解答群

① 未着商品	② 積送品	③ 試用品	④ 商品
⑤ 売掛金	⑥ 仕入	⑦ 売上	⑧ 商品売買益

(2) 資料3 の空欄 ～ にあてはまる数字を、解答用紙の解答欄にマークせよ。

簿記・会計

第2問 香川商店(決算は年1回、決算日は12月31日)は、A商品のみの売買を行っており、5伝票制(商品売買取引はすべていったん掛けとして処理し、伝票1枚につき、借方・貸方の科目が1科目ずつになるように起票する)を採用している。なお、補助簿として商品有高帳(移動平均法)、売掛金元帳、買掛金元帳を設けており、毎月末に仕訳集計表を作成している。

次の **資料1** ~ **資料4** にもとづいて、27ページの問い(問1~4)に答えよ。ただし、金額の単位はすべて万円である。なお、()は各自で考えること。

[解答記号 **ア** ~ **ホ**] (配点 30)

資料1 平成×5年6月中のすべての取引

- 2日：高知商店から商品¥()を仕入れ、代金のうち¥70は現金で支払い、残額は掛けとした。
- 3日：岡山商店から商品売買契約を確実にするための手付金として、当座預金に¥50が振り込まれた。
- 8日：岡山商店に商品を¥160で売り渡し、3日に受け取った手付金以外の残額は掛けとした。なお、発送費¥4は現金で支払った。
- 10日：さきに広島商店から振り出された約束手形¥60について、支払期日の延期の申し込みを受け、承諾した。支払延期にともなう利息¥()を加えた新手形を受け取り、旧手形と交換した。
- 13日：徳島商店から商品¥120を仕入れ、代金のうち¥30は、約束手形を振り出して支払い、残額は掛けとした。
- 15日：13日に徳島商店から仕入れた商品のうち¥()は、品違いのため返品し、返品にともなう運賃(徳島商店負担分)¥2は、当座預金から支払った。なお、これらの代金は買掛金から差し引くことにした。
- 20日：愛媛商店に商品を¥80で売り渡し、代金のうち¥30は、同店振り出し、高知商店引き受けの為替手形で受け取り、残額は掛けとした。なお、発送費¥6は小切手を振り出して支払った。

21日：20日に愛媛商店に売り渡した商品の一部に不良品があったため、¥10の値引きを行い、この値引額は売掛金から差し引くことにした。

26日：愛媛商店に対する売掛金¥40の回収として、かねて当店(香川商店)が振り出した小切手を受け取った。

27日：小切手を振り出して、現金¥77を引き出した。

資料2 平成×5年6月中に起票した伝票(略式)の一部

6月3日

振替伝票(借方)		振替伝票(貸方)	
当座預金	50	ア	50

6月8日

売上傳票		振替伝票(借方)		振替伝票(貸方)	
岡山商店	1 工才	ア	50	()	50

出金伝票	
発送費	4

6月13日

仕入伝票		振替伝票(借方)		振替伝票(貸方)	
徳島商店	()	買掛金	30	イ	30

6月26日

振替伝票(借方)		振替伝票(貸方)	
ウ	40	売掛金	40

(注) 振替伝票における商店名は省略してある。

簿記・会計

資料3 平成×5年6月分の仕訳集計表

仕 訳 集 計 表

平成×5年6月30日

借 方	元 丁	勘 定 科 目	元 丁	貸 方
()	(現 金	(夕子
()		当座預金		ツ子
カキ	省	受取手形	省	60
240		売掛金		ト子ニ
		イ		30
クケコ		買掛金		()
50		ア		50
サシス	略	仕 入	略	()
()		発送費		
セソ		売 上		()
)	受取利息)	1
1,000				1,000

資料4 平成×5年6月中の商品有高帳

商 品 有 高 帳

(移動平均法)

品名 A商品

単位：個

平 成 × 5 年	摘 要	受 入			払 出			残 高		
		数量	単 価	金 額	数量	単 価	金 額	数量	単 価	金 額
6	1 前月繰越	15	8.0	120				15	8.0	120
	2 高知商店	15	10.0	150				30	()	()
	8 岡山商店				10	()	()	20	()	()
	13 徳島商店	10	()	()				30	()	()
	15 徳島商店戻し				5	()	()	25	()	()
	20 愛媛商店				5	()	()	20	()	()

問 1 資料 1 にもとづいて、資料 2 の空欄 ア ～ ウ にあてはまる勘定科目を、次の解答群のうちから一つずつ選べ。また、空欄 エ ・ オ にあてはまる数字を、解答用紙の解答欄にマークせよ。

ア ～ ウ の解答群

- | | | |
|--------|---------|--------|
| ① 現金 | ④ 受取手付金 | ⑦ 支払手形 |
| ② 当座預金 | ⑤ 仮受金 | ⑧ 受取手形 |
| ③ 小切手 | ⑥ 約束手形 | ⑨ 買掛金 |

問 2 資料 1 ～ 資料 4 にもとづいて、資料 3 の空欄 カ ～ ニ にあてはまる数字を、解答用紙の解答欄にマークせよ。

問 3 資料 1 ・ 資料 2 にもとづいて、6 月中に起票した伝票に関する、次の記述(1)・(2)の空欄 又 ～ ノ にあてはまる数字を、解答用紙の解答欄にマークせよ。

- (1) 入金伝票は 又 枚、出金伝票は ネ 枚ある。
- (2) 振替伝票は、資料 2 に記載されている枚数を除いて、ほかに ノ 枚ある。

問 4 資料 4 の商品有高帳に関して、次の記述(1)・(2)の空欄 ハ ～ ホ にあてはまる数字を、解答用紙の解答欄にマークせよ。

- (1) 6 月の商品売買に関する売上原価は、¥ 1 ハ ヒ である。
- (2) 商品の払出単価を先入先出法で計算した場合、6 月末の商品棚卸高は、¥ フ ヘ ホ である。

簿記・会計

第3問 京都商事株式会社(決算は年1回、決算日は3月31日)は、商品売買業を営んでいる。**資料1**は、平成×5年3月31日の残高試算表、**資料2**は、修正事項、**資料3**は、決算整理事項、**資料4**は、平成×5年3月31日の損益勘定、**資料5**は、平成×5年3月31日の繰越試算表である。

これらの資料にもとづいて、株式会社に関する31ページから32ページの問い(問1～5)に答えよ。ただし、金額の単位は、別途指示している箇所を除き、すべて万円である。なお、()は各自で考えること。

[解答記号 **ア** ~ **ホ**] (配点 30)

資料1 平成×5年3月31日の残高試算表(決算整理前)

残高試算表
平成×5年3月31日

借 方	金 額	貸 方	金 額
現金	70	支払手形	50
当座預金	280	買掛金	130
受取手形	130	借入金	200
売掛金	270	貸倒引当金	15
有価証券	190	備品減価償却累計額	()
繰越商品	165	社債	ウ エ オ
仮払法人税等	12	資本金	550
備品	180	資本準備金	16
繰越利益剰余金	75	利益準備金	40
仕入	1,885	別途積立金	50
給料	205	売上	2,325
支払家賃	92	受取手数料	16
保険料	48		
支払利息	()		
社債利息	ア イ		
	()		()

資料2 修正事項

決算整理に先立ち、次の(1)~(3)の事項が判明した。(残高試算表には反映されていない。)

- (1) 現金の実際有高と帳簿残高を照合したところ、実際有高は¥90であった。金額の不一致の原因は、支払家賃¥4と売上¥23の記入もれであることが判明した。残額は、原因が不明であったので、勘定で処理する。
- (2) 売買目的で保有する有価証券10株(1株の帳簿価額¥19)のうち5株を、1株につき¥20で売却し、代金は当座預金に振り込まれていた。この取引が未記帳であったので適切に処理し、この取引から生じる損益を勘定で処理する。
- (3) 買掛金の支払いのため、仕入先奈良商店あての約束手形¥10を振り出していたが、それを二重に記帳していたので、修正を加える。

資料3 決算整理事項

- (1) 期末商品棚卸高は、¥125である。
- (2) 受取手形と売掛金の期末残高に対して、3%の貸し倒れを見積もる。なお、貸倒引当金の設定は、差額を計上する方法(差額補充法)による。
- (3) 備品は、すべて平成×3年4月1日に取得したものである。定額法(残存価額は取得原価の10%、耐用年数は6年)で減価償却を行う。なお、備品の減価償却は、これまで適正に行われてきた。
- (4) 借入金は、すべて平成×4年7月1日に年4%の利息(借入期間は2年、利払日は6月末日と12月末日)で借り入れたものである。
- (5) 社債は、平成×1年4月1日に額面総額¥200の社債を払込金額@¥97(単位:円)、利率年5%、利払い年2回(9月末日と3月末日)、償還期限6年の条件で発行したものである。なお、社債の額面金額と払込金額との差額は、毎決算時に償却原価法(定額法)により処理している。
- (6) 保険料は、毎年10月1日に1年分を支払っている。なお、当期の支払い分から保険料の見直しが行われており、見直し前の保険料は1か月あたり¥2であった。
- (7) 当期の法人税、住民税および事業税の合計額¥20を計上する。

簿記・会計

資料4 平成×5年3月31日の損益勘定

		損 益	
3/31 仕 入	1, カキク	3/31 売 上	2,348
" 給 料	205	" 受取手数料	16
" 支払家賃	()	" シ	ス
" 保険料	()	" セ	ソ
" 減価償却費	()	" タ	チ
" 支払利息	ケ		
" 社債利息	()		
" 法人税等	20		
" 繰越利益剰余金	コサ		
	()		()

資料5 平成×5年3月31日の繰越試算表

繰越試算表
平成×5年3月31日

借 方	金 額	貸 方	金 額
現金	()	支払手形	()
当座預金	380	買掛金	1 トナ
受取手形	130	借入金	200
売掛金	270	貸倒引当金	()
有価証券	95	備品減価償却累計額	ニ又
繰越商品	()	社債	()
備品	180	未払利息	()
前払保険料	ツテ	未払法人税等	ネ
繰越利益剰余金	22	資本金	550
		資本準備金	16
		利益準備金	40
		別途積立金	50
	()		()

問 1 資料 1 ～ 資料 3 にもとづいて、資料 1, 資料 4 の空欄 ア ～ サ にあてはまる数字を、解答用紙の解答欄にマークせよ。

問 2 資料 1 ～ 資料 3 にもとづいて、資料 4 の空欄 シ, セ, タ にあてはまる勘定科目を、次の解答群のうちから一つずつ選べ。また、空欄 ス, ソ, チ にあてはまる数字を、解答用紙の解答欄にマークせよ。

シ, セ, タ の解答群

- | | | |
|-----------|-----------|-----------|
| ① 現金過不足 | ④ 雑 損 | ② 雑 益 |
| ③ 貸倒償却 | ⑤ 貸倒引当金戻入 | ⑥ 貸倒引当金 |
| ⑦ 有価証券評価益 | ⑧ 有価証券評価損 | ⑨ 有価証券売却益 |
| ⑩ 有価証券売却損 | | |

問 3 資料 1 ～ 資料 3 にもとづいて、資料 5 の空欄 ツ ～ ネ にあてはまる数字を、解答用紙の解答欄にマークせよ。

問 4 平成×5年6月28日の株主総会において、繰越利益剰余金勘定の借方残高 $\yen 22$ を填補^{てんぽ}するため、別途積立金 $\yen 22$ を取り崩した。この場合の仕訳を示すと次のようになる。空欄 ノ ・ ハ にあてはまる勘定科目を、下の解答群のうちから一つずつ選べ。

(借) ノ 22 (貸) ハ 22

ノ ・ ハ の解答群

- | | | |
|---------|---------|-----------|
| ① 損 益 | ④ 資 本 金 | ② 資本準備金 |
| ③ 利益準備金 | ⑤ 別途積立金 | ⑥ 繰越利益剰余金 |

簿記・会計

問 5 平成×5年7月1日に、あらたに株式10株を1株につき¥10で発行し、全額の引き受け・払い込みを受け、払込金は当座預金とした。ただし、1株につき¥4は資本金に計上しないことにした。なお、株式の発行に要した諸費用¥2は小切手を振り出して支払った。この場合の仕訳を示すと次のようになる。空欄 **ヒ**， **ヘ** にあてはまる勘定科目を、下の解答群のうちから一つずつ選べ。また、空欄 **フ**， **ホ** にあてはまる数字を、解答用紙の解答欄にマークせよ。

(借) 当座預金 100 (貸) 資本金 ()

ヒ **フ**0

(借) **ヘ** **ホ** (貸) 当座預金 **ホ**

ヒ， **ヘ** の解答群

- | | | |
|---------|---------|-----------|
| ① 社債発行費 | ② 株式交付費 | ③ 支払手数料 |
| ④ 資本準備金 | ⑤ 利益準備金 | ⑥ 繰越利益剰余金 |